〔足利季世記二舟岡記〕義晴御誕生之事

同年〇永正七年ノ八月七日ノ夜、大地震ヲビタヾシクシテ、國々堂舍佛閣顚倒シ、〇中略其地震七十餘日不レ止ニシテ、アマツサヘ、八月廿七日、廿八日兩日ノ間ニ、遠江國エ大浪オビタヾシク來リ、陸地忽ニ海トナル、今ノ今切ノ渡ト申ハ是也、

〇按ズルニ、今切渡ノ事ハ、渡篇荒井渡條ニ詳ナリ、參看スベシ、

〔海道記〕十一日〇貞應二年四月ニ橋本をたつ、橋のわたりより行々たちかへりみれば、跡にしらなみのこゑは、すぐるなごりをよびかへし、路に青松の枝は、あゆむもすそを引とゞむ、北にかへりみれば、湖上はるかにうかんで、なみのしは水の顏に老たり、西にのぞめば湖海ひろくはびこりて、雲のうきはし風のたくみにわたす、水鄕のけしきは、かれも是もおなじけれども、湖海の淡鹹は氣味これことなり、浥のうへには浪に翥、みさご涼しき水をあふぎ、舟の內には唐櫓おすこゑ、秋のかりをながめて夏の空にゆく、本より興望は旅中にあれば、感腸しきりに廻りておもひやみがたし、

〔東關紀行〕橋本と云所に行つきぬれば、きゝわたりしかひありて、氣しきいと心すごし、南には潮海あり、漁舟波にうかぶ、北には湖水有、人家岸につらなれり、其間に洲崎遠くさし出て、松きびしく生つゞき、嵐しきりにむせぶ、松のひゞき波のをと、いづれとき、わきがたし、行人心をいたましめ、とまるたぐひ夢をさまさずといふ事なし、みづうみにわたせる橋を濱名となづく、ふるき名所也、

〔梅花無盡藏二七言絶句〕濱名湖十三日、出ニ大昌寺、疾風暴雨、午後嘗ニ大岩寺人見石、熊坂石等嶮、晚間歷ニ駿河一入ニ遠江黍里一見ニ此湖、寔如ニ畫圖一、漸過ニ三河一入ニ遠江、濱名湖上置ニ佳鄕一、願言喚起龍眠老、一軸中間令ニ筆忘一、陽唐與レ江通、見ニ山谷詩一、

〔丙辰紀行〕今切